

物流ニッポン LOGISTICS NIPPON

茨城流通サービス

小倉 邦義さん



【茨城】「コンクールへの参加目的は、取り組みレベルの確認であり、より環境に配慮した輸送を実現するためのツール。今後も安全、品質、環境を向上させるための取り組みはエンドレス」

交通エコロジ・モビリティ財団（井山嗣夫会長）が今年度実施した「エコドライブ活動コンクール」で、最優秀賞を受賞した茨城流通サービス（茨城県古河市）の小倉邦義社長は、受賞の経緯と経営方針などについて語る。5年連続でコンテストに参加し、

翌年から毎年優良賞などを受賞、今回は全国ナンバー1の企業として認められた。

「環境に配慮した輸送を重視してきたのは、かつての貸し切り輸送から積合せ主体の輸送体系に切り替えたのが契機だった。配送エリアや取扱

貨物の絞り込みとともに、同

環境配慮の輸送重視

業他社とのアライアンス（戦略的提携）を推進した。そのため輸送情報システムの構築や品質の向上が欠かせなかった」

環境に配慮した輸送のための取り組みとして、6年前に全車に導入したデジタルタコ

アライアンス推進が契機

グラフの成績ランキングを毎月公表するとともに、グループミーティングを継続。今年度は、車種別の燃費1%以上アップの目標を掲げるとともに、ドライバー個々による燃費の違いを実証実験した。

「同じ時期に購入した同型



仕様の車両で、なぜ燃費に差が出るのかを調査したところ、興味を引く結果となった。6月に実証実験後、7月以降全員の燃費が向上したが、燃費の悪かったドライバー以上、自社の取り組みを全国各地に良かったドライバーのほう事例発表するなど、エコドライブ活動の啓発普及に努めていることがら、12日付で、環境大臣賞

「環境保全功労者」を受賞したばかり。 「事例発表を行うことで、自らさらに向上心がかきたてられる思いがある」と語り、ライバー全員に毎日燃費データを算出させ、自主管理表に記入した。意識付けが大きな成果となったことで、今後も

(谷本 博)